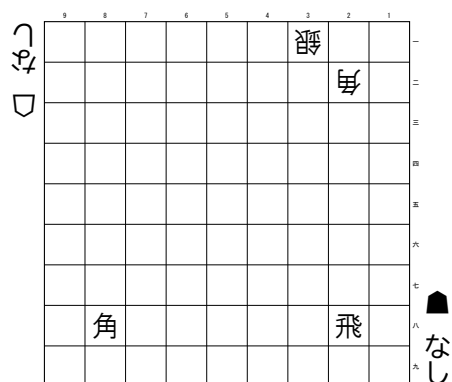


2026.1.17 将棋講座 第 9 回

数の公式

●ポイント地点でお互いの駒の利きを数える



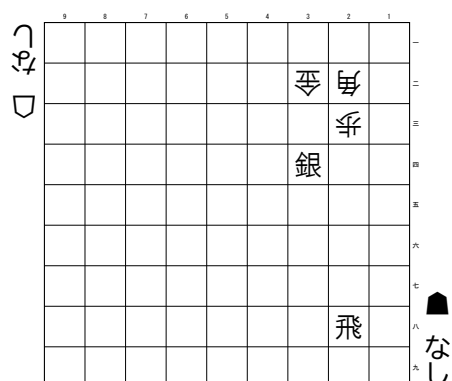
まず2二の地点に注目。この場合2二にいる角は無視してもいい。
2二の地点への利きは攻め2（飛車と角）で守りが1（銀一枚）
→ 破れる！

破れるとは攻めが成功すること。
この場合は先手が駒得（銀得）しつつ大駒を敵陣に成り込める。

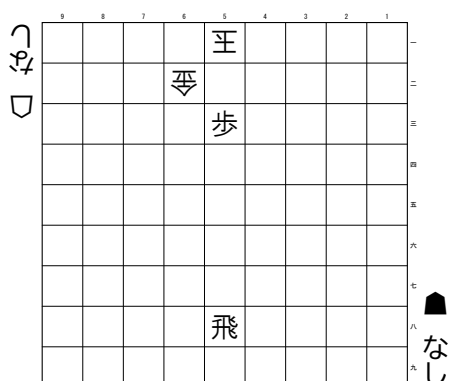
こちらの利きが多ければ破れる、利きが相手のほうが多ければ
もちろん破れない。利きが同じでも破れない。

慣れないうちは駒の利きを指で数えてもいい。

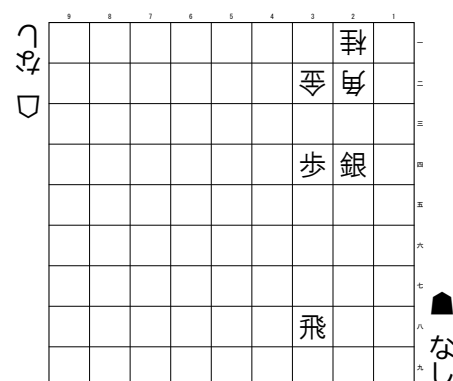
●練習問題（駒の利きを指で数えて破れるか破れないか確認）



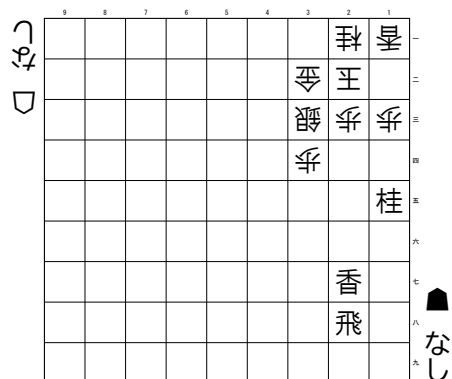
()



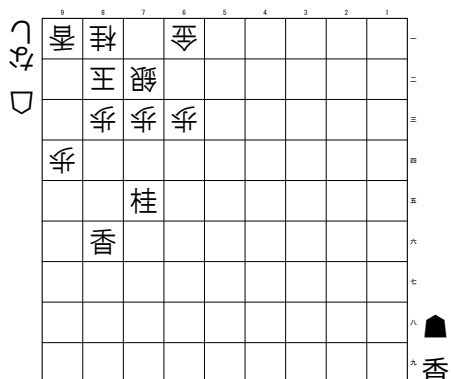
()



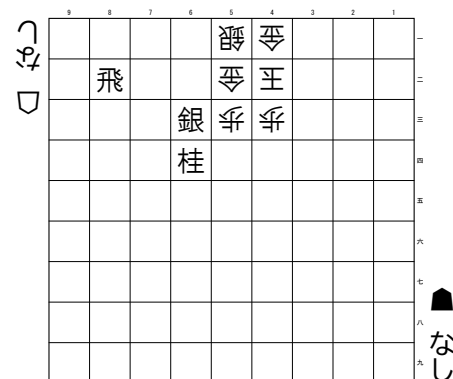
()



()

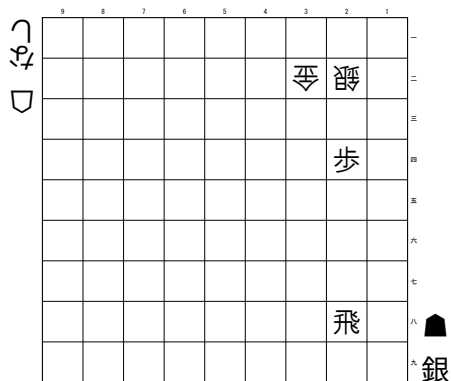


()



()

●ポイント地点に持駒投入！

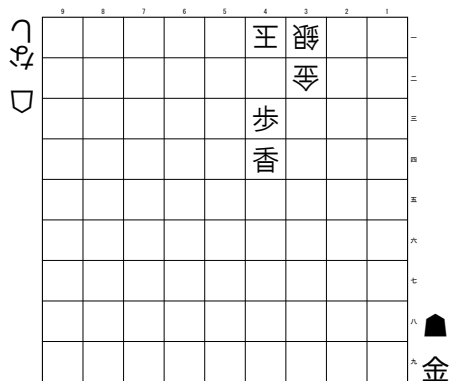


左図の場合は、2三の地点の利きに注目すると、先手が2（飛車と歩）で後手が2（金と銀）。

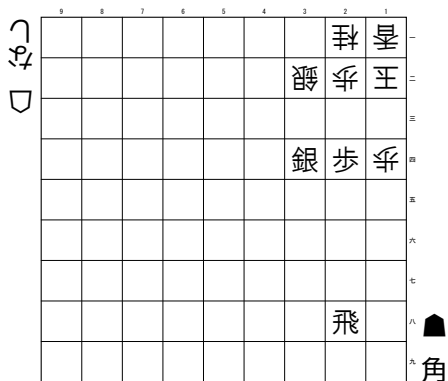
なので単純に▲2三歩成としても破れない。
ただ持駒に銀があるので▲2三銀と打ち込む手がある。
これで破れる。

理由を説明すると、▲2三銀と打ち込んだ手に対して△同銀（あるいは△同金）の局面を見てみると2三の地点が2－1になっている。つまり▲2三銀と打ち込みで強制的に力関係を2－1にしたという事です。
理屈は難しいので公式として、そういうものだ覚えましょう。

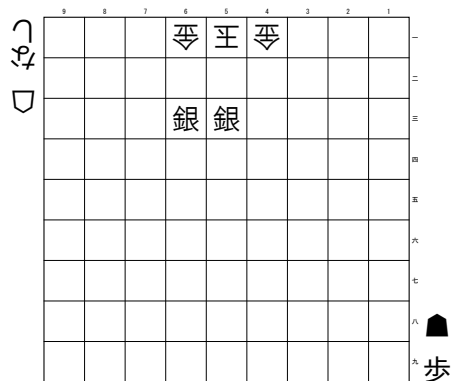
●練習問題（持駒を打ち込んで破れるか破れないか確認）



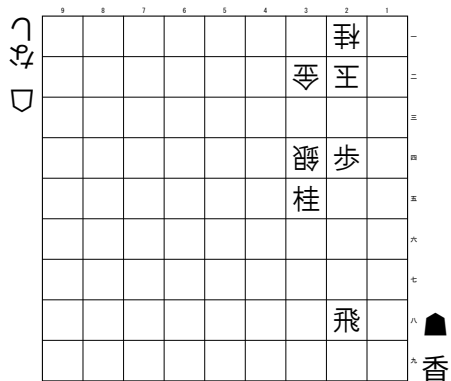
()



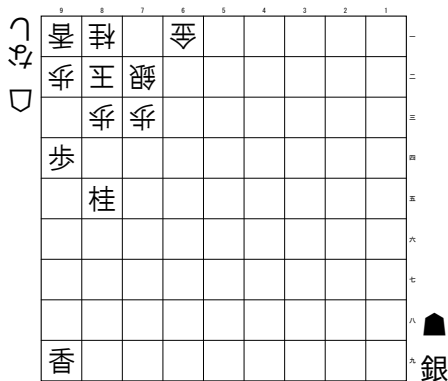
()



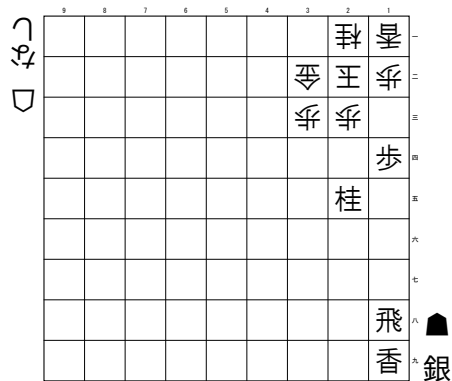
()



()

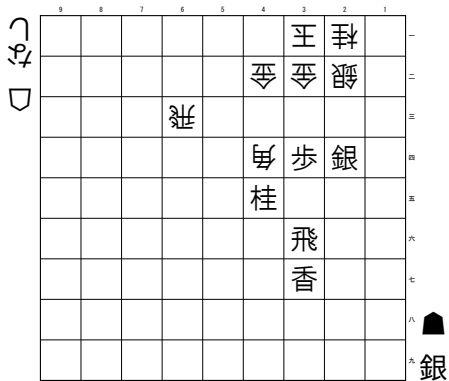


()



()

●なぜ公式を使うかについて



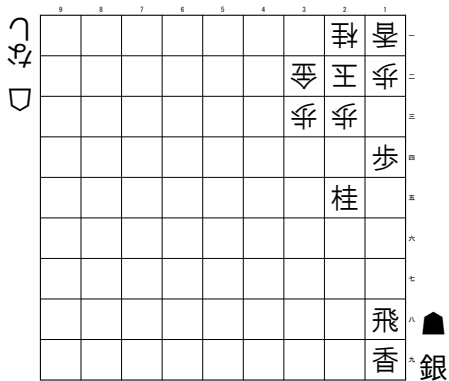
数の公式を使わなくても、手を読めばいいと思うかも知れませんが左図のような局面はどうでしょうか？

▲ 3 三銀と打ち込むと△同桂▲同桂成△同銀▲同銀成△同金右に…。などと読んでいたらいくら時間があっても足りません。まして実戦では秒読みになっている事もあるかも。

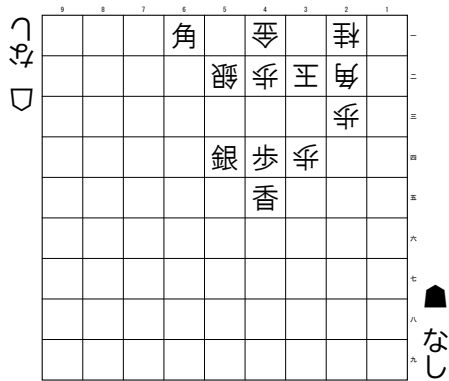
数の公式を使えば、先手5で後手6、持駒を打ち込んでいっても5-5で攻めきれない、このように慣れれば瞬時に判断できます。

左図のような局面はめったに出現しないと思うかも知れませんがそんなことはありません。実戦ではもっと利きが集中している局面も出現します。

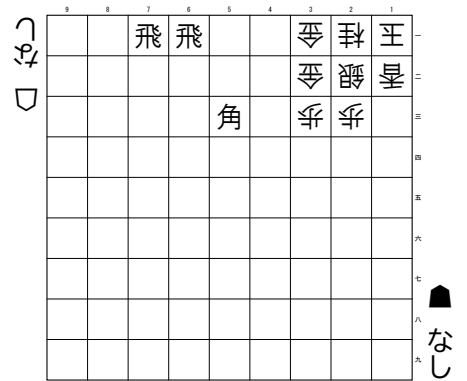
●練習問題（色々な問題を織り交ぜてあります）



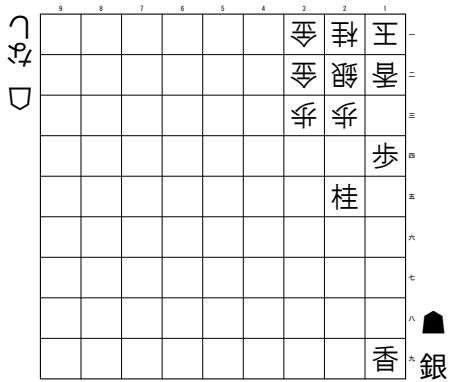
()



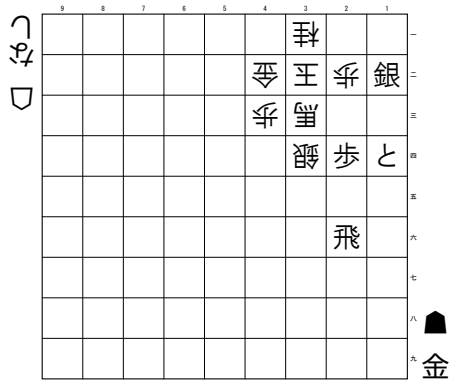
()



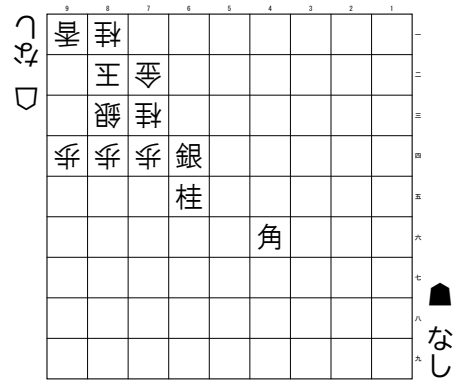
()



()

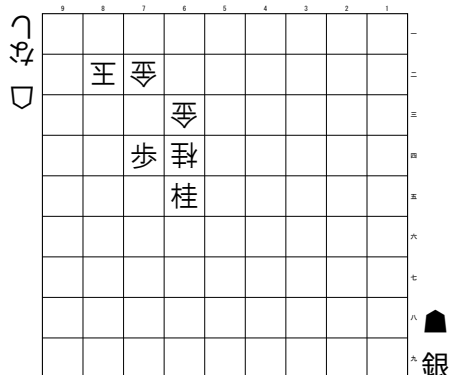


()



()

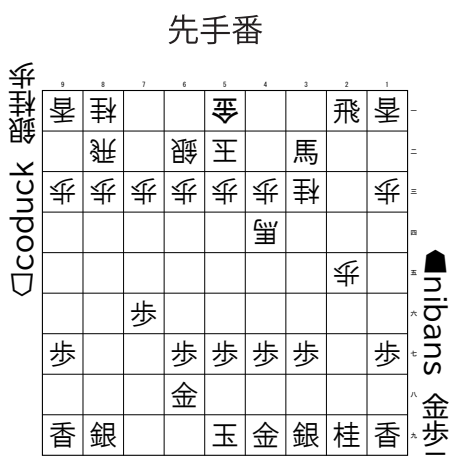
●数の公式 実戦への応用



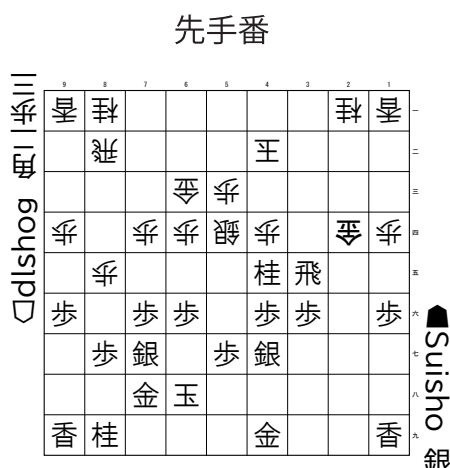
左図はプロの実戦です（▲阿部光瑠六段 VS △鈴木大介九段）。7三の地点は▲7三銀と打っていても攻め切れないと判断した先手は▲7五銀と打って▲7四歩の拠点を守りつつ攻めをためました。このように数の公式が頭に入っていると、無理攻めをせずに的確な手が打てるようになります。

あと数の公式は受けにも応用が利きます。注意点としては駒を渡したときにその駒で反撃される恐れがあります。ですがこれは数の公式と別の話です。まず破れるか破れないか。その上で渡した駒で反撃されるのならやめるか保留するか、その時に決めます。まず成立する前提、成立しない前提があって、それに関わる問題はまた別の話、こう考えることで思考がシンプルになります。

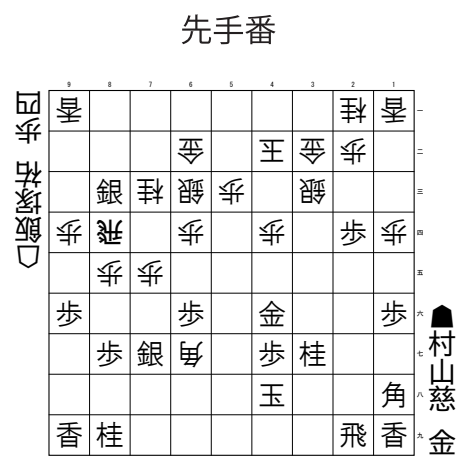
●練習問題（次の一手）



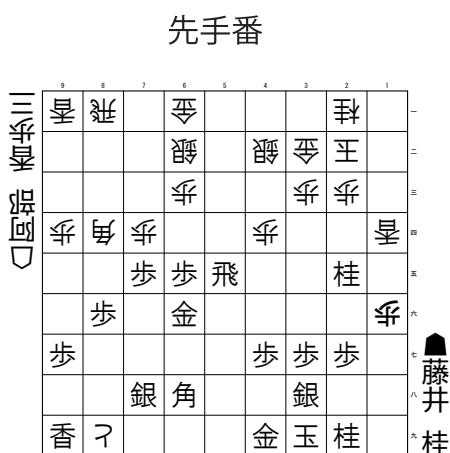
ヒント
ポイント地点は？



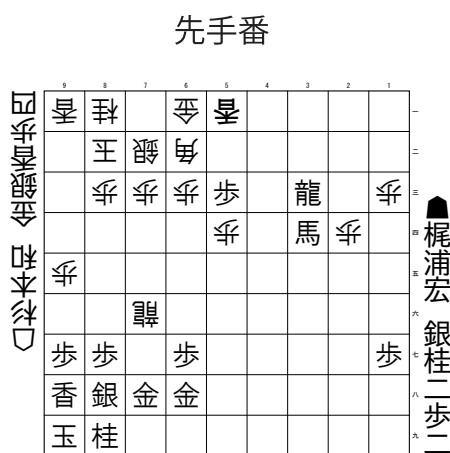
ヒント
飛車取りに慌てずに数の公式



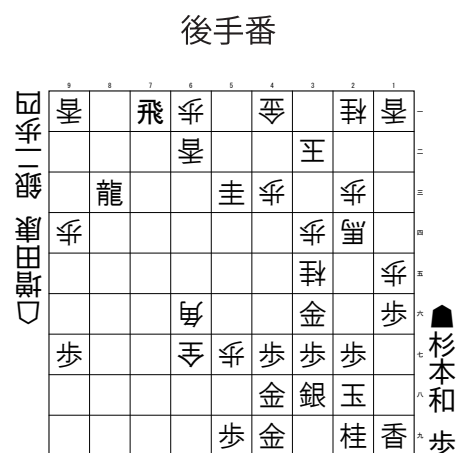
ヒント
ポイント地点が分かりづらい



ヒント
打つ駒はなんでもいい



ヒント
打ちにくい手だが数の公式



ヒント
3手の読みで数の公式の形に